

羽越水害から50年

荒川水防演習を実施



5月27日(土)、荒川右岸河川敷で消防団や自主防災組織、関係団体ほか、一般見学者など約2500人が参加し、荒川水防演習が行われました。

今年は、昭和42年8月に発生した羽越水害から50年の節目の年。「語り継げ！羽越水害 子に孫に」のスローガンのもと、羽越水害の記憶の継承と、今後起こりうる水害に備えることを目的に、水防工法の実施訓練や洪水警戒レベルに合わせた実践的訓練が行われました。



▲陸上自衛隊による炊き出しや救援物資輸送



▲緊迫した演習を見つめる見学者



▲日本赤十字奉仕団などによる炊き出し



▶ 救護所内では救急蘇生法を実施

荒川流域の特性にあった水防工法などの実施訓練（村上市・胎内市・関川村消防団・自主防災会）



▲川倉工（神林方面隊）



▲開会式に臨む消防団員



▲消防団の指揮をとる中山消防団長



▲鋼製月の輪工（朝日方面隊）



▲T型マット工（村上方面隊）



▲自主防災会の避難訓練

羽越水害の記憶を次世代へ語り継ぐための防災教育体験（砂山小・平林小・関川小・一般見学者）



▲土石流模型実験



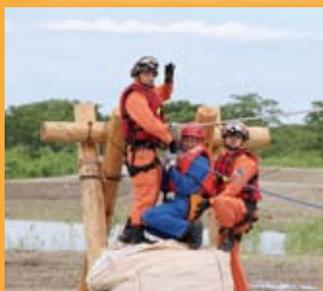
▲地震体験



▲土のう作り体験

洪水氾濫発生を想定した救助訓練

▶ヘリによるつり上げ救助（第九管区海上保安本部）



▲ロープブリッジによる救難救助（新発田地域広域事務組合消防本部）



▲ボートによる水難者救助（村上市消防本部）



▲水没車両からの救助（新潟県警察本部）